

Title	国鉄旅客列車名称の分析研究
Author(s)	菅原, 邦城
Citation	大阪外国語大学学報. 35 p.133-p.151
Issue Date	1976-03-01
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80573">https://hdl.handle.net/11094/80573</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 国鉄旅客列車名称の分析研究

菅 原 邦 城

## An Analytic Study of the Names of the JNR Passenger Trains

Kunishiro Sugawara

### Preface

In this paper the names of passenger trains of the Japanese National Railways (JNR) are analyzed, as this branch is considered to be new in Japanese onomatology. Here are 277 different names surveyed, which are listed in Chapter IV. In Chapter III they are divided into main categories and afterwards further into minor groups (§ 1), some problems concerning our method of classification discussed (§ 2), some characteristics of the names of the Japanese trains pointed out (§ 3) and finally these names examined from various linguistic points of view (§ 4).

First of all my thanks are due to Professor Thorsten Andersson of Uppsala University, who directed my interests to this particular branch of onomatology, or *namnforskning* in Swedish, during the winter 1973—1974 by reading Johannes A. Huismann's report among others (see Chs. I and II). Secondly I thank my brother Masahiko Sugawara and the Information Section of the JNR Head Office for their kind help to supply me materials and useful information. Last but not least I thank the Swedish Institute for giving me a precious opportunity to study in Uppsala from 1973 to 1975.

September 1975

K. S.

### I. 序

#### 1. 名辞研究

人名、地名をはじめとする固有名を研究の対象とする言語科学の一部門は、欧米では, onomatology (, onomastics, onomastic science), onomatologie (, onomastique), Namenkunde (, Onomatologie) 等と称され、これらの術語はいずれも＜名前の学問＞を意味する。日本語では、＜地名学＞と＜人名学＞という術語は確立しているが、これらを含む研究分野を総称する術

語（提案的には＜名辞研究＞，＜名称学＞のような語が考えられる）は見当らない。<sup>1</sup>

従来＜名の研究＞は、ほとんど専ら地名と人名を取扱っているだけである。その他の種類の名は、総体的にいて、いわば無視されてきたといえよう。しかし近年、命名者や命名法の心理学的、社会学的側面から、これらの名の研究も必要であることが唱えられるようになった。

2. オランダ人学者 HUISMANN は、1958年の国際学会で、人名・地名以外の名（名称，名辞）を研究することの重要性を指摘した。<sup>2</sup> 未研究のものとして彼は、以下の種類の名を挙げている。

i. 動物・植物類

- (a) 半人半獣的，またトーテム的・神人同形同性的（anthropomorph）な神概念の産物たる神話的存在
- (b) 映画や動画にみられる動物
- (c) 動物園やサーカスの野獣
- (d) 個々の植物，樹木（群）

ii. 器具・道具類

- (a) 武器（とくに剣，更には戦斧・槌・槍・矢・鎧・冑・楯・銃砲など）
- (b) 楽器（とくに鐘，更にはオルガン・ギター・ハープなど）
- (c) その他（たとえば宝石・碑・写本・文書など）

iii. 交通機関類

- (a) 水上（とくに内水船，さらに浮動装置・浚渫機・起動機・乾船渠など）
- (b) 陸上（自家用自動車，長距離トラック，機関車・列車など）
- (c) 空中（航空機，宇宙飛行船など）

iv. 芸術作品類〔ここでは，タイトル＝名である〕

- (a) 造形芸術（建築・彫刻・金銀細工・絵画など）
- (b) 抽象芸術（文学，音楽，舞踊，映画，ドラマなど）

v. 非芸術的著作〔文献〕類

法律・規則，告示・布告・宣言，書簡・回章，鑑定書など

vi. 気象学・海洋学の分野

- (a) 気象関係（台風・ハリケーン，気圧など）
- (b) 海洋関係（海流・渦流など）

vii. 出来事

- (a) 自然関係（嵐・地震・洪水・雪崩，伝染病など）
- (b) 政治関係（暴動・反乱・革命，講和，同盟など）
- (c) 軍事関係（戦争，作戦，行軍など）
- (d) 経済，文化関係（催し・行事・展覧会，祝賀，会議・大会，発見旅行など）

viii. 抽象名

- (a) 諸科学の専門術語

(b) プラニング（都市計画，産業計画，軍事計画，建築物設計など）

(c) 人間相互間の伝達手段（言語，文字体系，速記法，暗号など）

ix. 人間社会の組織の産物

(a) 共同社会的（民族・部族，家系など）

(b) 利益社会的（教会，国家，連合，組合，軍隊単位，産業チームなど）

〔他に，企業団体名称と関連して，これらが生産する製品の名も興味ぶかく，重要な研究対象になり得る。〕

3. 本稿は，上の HUISMANN の示唆にもとずき，日本国有鉄道の名（愛称）をもつ旅客列車（急行，特急，東海道新幹線列車）を取りあげた。分析検討に先立って，『時刻表』昭和49年2月号（弘済出版会発行）をソースに用いて，列車名称をカードに書き抜いた。ただし，一時的な季節臨時列車は除いた（相当数の列車は，ここに採録したものと同一の名称をもつことが少ない。たとえば「アルプス」，「きそ」，「つばさ」，「ゆのくに」）。1年半を経過した今日の時点で資料は少なく古くなっているかも知れない。しかし国鉄列車名称の全体的な傾向を把握するには，今なお十分有効であると考えられる。

4. 拙論の作成過程で，とくに以下の人々に援助，助言をいただいた。この機会を利用して感謝の意を表したい。最初に，ウプサーラ大学ノルド語学科1973—74年冬学期の＜名辞研究＞*Namn-forskning* 講座の担当者で，本稿骨子を検討していただいた北欧地名学者 Thorsten Andersson 教授，資料やその他の情報を提供してくれた兄の菅原政彦（盛岡市），また不明の点をご教示いただいた国鉄本社旅客局サービス係，そして最後にウプサーラに学ぶ機会を与えられた Svenska Institutet (Stockholm) である。

## II. 列車名称の研究 —北米の場合—

1. HUISMANN が引用の所で指摘しているように，この種の名辞研究は，比較的はやくアメリカにおいて着手された。その成果は主として雑誌 *NAMES. Journal of the American Name Society* 1 ff. (Berkley/Los Angeles, 1953 ff.) に発表されている。すでにその創刊号において，北米の旅客列車の名称が論じられた。<sup>1</sup>

2. E. G. GUDDE の論考は，以下のようにまとめられよう。列車名称は，名称それ自体が直接的に指示するものの外，間接的には(1)国の歴史と(2)地理，(3)国土の自然資源，(4)国民の心理を反映する。さらには，(1)迅速な輸送，(2)運行の頻度，(3)安全性と快適性，(4)公共へのサービスという鉄道の機能をも表わす。

GUDDE は，当然ながら，列車名称の含蓄する特徴を詳述しながら，それを次のように大別・分類している。

3. 彼はまず

A. 品詞・意味論的に分類する（多くの名辞は，列車のはやい速度を示す）

i. <属性>の形容詞：例 *Express* 「急行の」

ii.<比喩>の名詞：例 *Arrow* 「矢」

B. 地理学的名辞（列車の始発地・目的地・走行の方角等を示す）

i. 方角の名辞：例 *Northern Express* 「北部急行」

ii. 本来の地名

(a) 大きい地理的概念を表わす名：例 *Ocean Limited* 「大洋特急」, *Pan-American* 「全米」

(b) 山岳名：例 *Mount Shasta* 「シャスタ山」, *Rocky Mountains* 「ロッキー山脈」

(c) 河川名：例 *Missouri* 「ミズリ」

(d) 国有地・歴史的内容を含む地名：例 *Yellowstone* 「イエロウストウン」（国立公園）, *Shenandoah* 「シェナンドア」（南北戦争の戦跡）

(e) 州名, 重要な駅の名：例 *Chicago* 「シカゴ」

(f) 街路名：例 *Broadway Limited* 「ブロードウェイ特急」（B. はニューヨーク市の大通りで劇場街）

(g) 州のニックネーム：例 *Empire State Express* （「エンパイア・ステート」はニューヨーク州のこと）

C. <生物>を表わす名辞

i. 人間

(a) 歴史的人物：例 *Ponce de Leon* （探検家）, *Washington* （政治家）, *Edison* （発明家）, *Mark Twain* （作家）, *Will Rogers* （映画俳優）, *Nellie Bly* （婦人記者）<sup>2</sup>

(b) 職業・肩書名：例 *Admiral* 「提督」, *President* 「大統領」, *Speaker* 「下院議長」

(c) 地方・州人のニックネーム：例 *Patriot* 「愛国者」（北部人）, *Quaker* 「クウェーカー教徒」（ペンシルヴァニア人）

(d) 北米大陸原住民の名（主として部族名）：例 *Eskimo* 「エスキモー人」（カナダ, アラスカに住む）, *Sioux* 「スー族」（北ダコタ州のインディアン原住民）, *Pocahonta* 「ポウカホント」（インディアンの王女）

(e) 地名の擬人化（列車の始発地・目的地を示す）：例 *Bostonian* 「ボストン人」, *Kansas Cityan* 「カンザス市民」, *New Yorker* 「ニューヨーク人」, *Laker* （The Great Lakes <五大湖>から）, *Louisiane* 「ルイジアナ人」, *Akronite* 「アクロン市民」

ii. 鳥類

(a) はやい速度を示す：例 *eagle* <わし>

(b) 運行時を示す：例 *nightingale* <よなきうぐいす>

(c) 運行地域のシンボル：例 *flamingo* <べにづる>, *alouette* <ひばり>

(d) その他：例 *Flying Crow* 「空飛ぶからす」（走行中の列車の外見から）

iii. 獣類

(a) 駿足の獣（速さのシンボル）：例 *Antelope* 「かもしか」, *Yankee Clipper* （clipper <駿馬>）, *Nancy Hanks II* 「ナンシー・ハンクス2世」（同名の名競走馬に因んで）<sup>3</sup>

(b) 州（人）のニックネーム：例 *Badger Express* 「あなぐま急行」（ウィスコンシン州）,

*Wolverine* 「くずり」(ミシガン州)

iv. 草木類(多くは列車の走行地方を象徴)

- (a) 穀物等の農作物: 例 *Cornbelt Rocket* 「とうもろこし地帯特急」, *Cotton Blossom* 「棉の花」
- (b) 花・木: 例 *Portland Rose* (ばら), *Palmetta* (やし)
- (c) 州花: 例 *The Bluebonnet* 「やぐるまぎく」(テキサス州), *The Sunflower* 「ひまわり」(カンザス州)
- (d) 州のニックネーム: 例 *Nutmeg* 「にくずく」(コネティカット州)

D. <無生物>を表わす名辞

- i. 鉱物 (C. iv. (a)と比較せよ): 例 *Black Diamond* 「黒ダイヤ」, *Copper Country Limited* 「銅の国特急」

E. 物理・天文・気象学的名辞(列車の速さ・運行時等を象徴)

- i. 物理学的名辞(運行時を示す): 例 *Night Owl* 「夜のふくろう」, *Day Cape Codder* 「昼のケープ・コッド人」
- ii. 天文学的名辞
  - (a) 速さを示す: 例 *comet* <彗星>, *meteor* <流星>
  - (b) 運行時を示す: 例 *Starlight* 「星明り」, *Sundown* 「日ぐれ」
- iii. 気象学的名辞(速さを示す): 例 *Zephyr* 「西風」

F. 言語学的名辞

- i. 利用者の関心を喚起しそうな名: 例 *Southern Belle* 「南国の美女」, *Indian Head* 「インディアン・ヘッド」
- ii. 音や響きのよさ(とくに頭韻<sup>4</sup>による): 例 *Silver Star* 「銀星」, *Banner Blue* 「青旗」
- iii. 正書法論的特徴を示す名
  - (a) 頭文字等の複合名称: 例 *Del-Mar-Va Express* (*Delaware*, *Maryland*, *Virginia* の3州を走行), *The Mondamin* (*Montana*, *Dakota*, *Minnesota* の3州を走行)
  - (b) 略字名称: 例 *F. F. V.* (*Fast Flying Virginia* 「ヴァージニア特急」の頭文字から)
  - (c) 逆つづり: 例 *Ak-Sar-Ben* (*Nebraska* 州!)
- iv. モットー: 例 *Dirigo* (メイン州, ラテン語「余は導く」)

G. 滑稽な名

例 *The Beachcomber* 「寄せ波」(「波止場の浮浪者」の意もあり), *Nightcap* 「寝ぼうし」(「寝酒」の意も), *The Stampeder* (「驚いてどっと逃げる者」)

H. その他

- i. 制度, 機構の名: 例 *Constitution* 「憲法」, *Judiciary* 「司法部」
- ii. 州のニックネーム: 例 *Lone Star* 「ひとつ星」(テキサス州旗に見られる一つ星から)。

### Ⅲ．日本国鉄の旅客列車名称

本稿では、Ⅳ．に通し番号を付して一覧表にした国鉄旅客列車名称277例を分類し、ついで種々の観点から分析を試みる。(資料等については、§Ⅰ. 3 にて既述。)

#### 1. 分類

##### 1. 1. 分類表

基本的には、GUDDE の分類例に準拠しつつ、客観的に分類することに努め、比較を容易ならしめた。なお、若干の名称は複数の項目に分類することが可能であり、その場合には、もっとも妥当と考えられる項目下に入れておいた(この部分で、分類者の主観が大なり小なり判断基準となることは、避けられないであろう。後出 §1. 2 を参照)。

#### A. 地理的名辞

##### i. 本来の地名

###### (a) 大きい地理学的概念を表わす名

- (1) 道(どう) : 85北陸, 197山陽, 240東海
- (2) 都道府県 : 83北海, 99いわて, 144みやぎ
- (3) 地方 : 3あいつ, 84北越, 89いぶり, 91伊那, 119きそ, 128, 147, 169, 174, 175, 176, 177, 217, 220
- (4) 市町村 : 32ちとせ, 43えさし, 46深浦, 51ごてんば, 54はぎ, 80, 107, 134, 136, 148, 155, 159, 189, 201, 230, 256

###### (b) 山岳名

- (1) 山 : 4あかぎ, 11あまぎ, 18あさひ, 20あさま, 23阿蘇, 25, 27, 33, 35, 36, 44, 47, 52, 55, 56, 58, 68, 73, 75, 90, 94, 104, 117, 129, 142, 149, 153, 164, 169, 194, 196, 213, 229, 234, 238, 239, 249, 251, 254, 259, 266, 267, 269, 277
- (2) 山脈 : 10アルプス, 72ひだ, 120北アルプス
- (3) 峠 : 108狩勝

###### (c) 水名

- (1) 海洋 : 16有明, 49玄海, 162日本海, 173オホーツク, 202瀬戸
- (2) 海峡・湾 : 114錦江, 137まつしま, 178音戸
- (3) 河川 : 1あぶくま, 2あがの, 26あずさ, 31ちくま, 45富士川, 77, 122, 126, 127, 133, 146, 237, 255, 260, 268, 270
- (4) 湖沼 : 95いなわしろ, 111かわぐち, 207しんじ, 224すわ, 235たざわ, 244十和田

###### (d) 島嶼 : 12天草, 15青島, 185礼文, 188利尻, 191佐渡, 262屋久島

###### (e) 半島・岬 : 22あしずり, 42えりも, 96犬吠, 101伊豆, 150むろと, 158, 168, 172, 204, 205, 216, 220

###### (f) 歴史的地名

- (1) 旧国名 : 8安芸, 24阿波, 30ちくご, 34長州, 38出羽, 40, 41, 81, 82, 88, 92, 97,

98, 100, 102, 113, 115, 118, 138, 141, 151, 179, 206, 209, 228, 231, 232, 243, 248, 250, 257 [138みちのくと 250つくしは, 2 国以上を併せ称しており, 厳密には国名とすることに疑問が残る。]

(2) 都市・都市区域: 37出島, 70平安, 79平戸

(g) 保養地(避暑地, 温泉など): 5赤倉, 39えびの, 109軽井沢, 132草津, 170野沢, 212, 233, 253, 271

(h) 公園・その他

(1) 国立・国定・県立公園: 9あきよし, 160日南, 187陸中, 192西海, 219そとやま

(2) 庭園: 112兼六, 199千秋

(3) 神社: 60白兔, 69はやとも, 110かすが, 163日光, 226大社

(4) その他の名所: 64はんだ, 124こまがね, 131くろよん, 140美保, 157なすの, 171ぬさまい, 184らいでん, 227たいしゃく

ii. 地名派生名称

(a) 地方: 103かいじ, 169能登路

(b) 国鉄路線・駅: 29池北, 53はぼろ, 166のべやま, 200仙山, 236天北, 252羽越

iii. 本来固有名でない名称: 78火の山, 121きたぐに, 143みさき, 154なぎさ, 186リアス, 195砂丘, 210しおじ

B. <生物>を表わす名辞<sup>1</sup>

i. 鳥類

(a) 列車の速さを示す: 65はと, 67はやぶさ, 71ひばり, 245つばめ

(b) 運行地域に特有, またはそれを象徴: 57白鳥, 183雷鳥, 214しらさぎ, 241とき

(c) その他(区分の特定困難): 28ちどり, 105かもめ, 180おおとり, 263やまばと

ii. 草木類

(a) 草・花(木): 63はまゆう, 76ひまわり, 125こまくさ, 182フェニックス, 193さくら, 218そてつ, 225すずらん

(b) その他(不特定, 部分名辞): 14あおば, 93いなほ, 145みずほ

C. 物理・天文・気象・海洋学の名辞

i. 物理学の名辞: 74ひかり, 123こだま, 264やまびこ

ii. 天文学の名辞

(a) 天体名: 13天の川, 50銀河, 87北斗, 116金星, 152明星

(b) 現象: 6あかつき, 7あけぼの, 48月光

(c) その他: 86北星, 181おおぞら, 208新星, 223彗星

iii. 気象学の名辞: 17あさぎり, 19あさかぜ, 62はまかぜ, 135まつかぜ, 156南風, 211しおかぜ, 221そよかぜ

iv. 海洋学の名辞: 21あさしお, 130くろしお, 198さざなみ



#### D. 言語学的名辞

- i. 利用者の関心を喚起しそうな名：190さちかぜ，258わかしお，265やまのゆ，272ゆけむり，274ゆのか，275ゆのくに
- ii. 特別な語感（とくに詩的，エキゾチックな含蓄で）をもつ名：59はくたか，61はくつる，66はつかり，106かむい，161にちりん，215しらゆき，242ときわ，273弓張，276ゆうづる
- iii. 部分代表呼称：246つばさ
- iv. 標語：139みどり
- v. 和歌・民謡の借用：203しいば，261やくも

#### 1. 2. 分類上の問題点

前段でわれわれは国鉄の旅客列車名称の分類を試みたわけだが，この分類そのものについてみると，必ずしもその基準あるいは根拠がつねに確固であるとは断言し得ない。ここでは，暫定的に，問題点あるいは不確実な点を若干指摘しておくに留める。

最初に明言すべきは，分類を試みる者の種々の知識と観点——地理，地方文化・歴史，国語（就中いわゆる国語感覚 Sprachgefühl）に関して——に限界があり，それも主観的になりがちなことである。したがって，分類者には妥当と考えられる分類結果であっても，他からは不適当とみなされることは大いにあり得る。それらはすべて，今後の研究の精確化——より一層の客観化——にまたねばならない。

1. 2. 1. 地理学的名称に関して第一に問題になることは，たとえ列車の運行区間等他の要素を考慮に入れても，同一名が複数の分類項目下に入り得る蓋然性である。問題となり得る例をいくつか挙げよう。

83北海は，函館——旭川間の特急だが，この名称は＜北海道＞の下略と考えられる外に，単に＜北の海＞→＜北＞と漠然たる方角を指すとも考えられよう。119きそは，名古屋／中津川——長野／松本間の急行だが，地方と同様に川の名から採られたとも思える（128くまのは，更に熊野権現とも考えられ得る）。72ひだは，山脈の別称北アルプスとならんで，岐阜県北部の旧国名か県立公園名かも知れない。68はやちねは，その命名者が，岩手県の早池峰県立自然公園や神社を念頭においてこの名を選び出したこともあり得る。254雲仙や277ざおうは，その名の山を中心とする国立公園から発している名ではなかろうか。164ニセコは＜ニセコアンヌプリ＞（「峡谷によりかかる山」）の下略か，さもなくば，スキー場として知られる保養地の名か（ニセコ積丹小樽海岸国立公園ではないだろうが）。142みのぶは，単に山というよりも，日蓮宗総本山身延山久遠寺という意味あい強いかも知れない。73比叡の場合も同様。173まつしまは，日本三景の名所の名か。122きたかみは，十分に山脈名でもあり得る。八戸——久慈間を走る快速列車126久慈（快速として例外的に名称をもつ！）は，岩手県東北部の市名である可能性強いのではなかろうか。220宗谷は，宗谷岬が突き出す海峡の名であろうか，それとも郡名であろうか。187陸中は，美しい海岸で知られる国立公園の名とともに旧国名でもあり得る。163日光になると，徳川家康眠る日光廟の外，国立公園か山か市の名とも考えられる。37出島は，長崎市内の町名でもあるが，79平戸とともに歴史的名所と考えるのが自然であろう（なお，79は平戸市には行かない！）。213白

根は、ともに群馬県の長野県境の二つの山、白根山と本白根山との両方を示唆している。

103かいじ<甲斐路>と169能登路は、名詞派生辞「路」の解釈次第で、その地方を走る列車とも、その地方に向う列車ともみなされよう。また、242ときわは、路線名ないしは地方名<常磐>の別な訓み方かも知れない。

以上のように問題になる列車名称について、我々は、いずれか一つの可能性のみに執着せず、それら複数の蓋然性を勘案しつつ、もっとも重点を置かれていると判断される項目にしたがって分類すべきである。

1. 2. 2. 地名以外の名称についてみると、まず B. i. (b), B. ii. (a) の若干, D. iv. —v. そしておそらく 106 と 242 を除けば、その起源の性質上、なかば先天的に、特定の場所は明示され得ない。ここでは、限られた各種の、せいぜい狭いローカルなイメージや連想をほとんど唯一の拠り所として命名者が半ば意識的に命名し、その名称を限定的に使用しようとすると考えられる。

たとえば、東京——西鹿児島間の特急67 はやぶさは、スピードを象徴する猛禽を指すと同時に、<(薩摩)隼人>と、音(あるいは文字)や鳥と部族の性格に関して、イメージ上の重ねが試みられた名称ではなかろうか。山形——上野間を走る特急263やまばと<山鳩>は、発着地の山形と最初の二音節を同じくしている。仙台——秋田間の特急14あおばは、仙台あたりの人々には、かつて青葉城(仙台城)が建っていた青葉山の緑の樹木を想わせるかも知れない。

さらに、函館——網走間の特急である180おおとりの分類については、もしこれが<鵬>を指すのならば、それは想像上の鳥であり(力士名<大鵬>をも参照)、したがって我々は新しい分類項目をたてねばならない。<sup>1</sup> ここでは、181おおぞら<大空>(函館——釧路/旭川間の特急)との類推で<大鳥>と解釈した。

最後に、本稿でもっとも不確実な分類内容は、D. i. —ii. であり、分類者の拠り所はほとんど専ら自分個人の国語感覚である。この基準は、前述のように、もっとも主観的になる傾向があり、これを判断の手段とすることはもっとも議論的になろう。

## 2. 北米列車名称との比較

列車名称の起源たる名辞の種類は、北米が日本よりも多数である。その一部は言語用法の点から不可能であるが、両者のいずれかに認められない種類の名辞は偶然に欠けていることが多い。

2. 1. Gudde の挙げた北米の列車名称にくらべると、日本の列車名称には以下の種類のないことが明らかになる (§II. 3 を参照)。

- (1) 北米では地理的名辞とならぶ大グループである A. i. (*Limited*, *Special* 「特別の」など)
- (2) A. ii. (*Mail* 「郵便 (馬車)」, *Rocket* 「火矢, ロケット」, *Cannon Ball* 「弾丸」など)。  
しかしこのグループは意義の上では、*eagle*, <ひかり>, その他の速さを象徴する名辞群と部分的に重複する。
- (3) B. i. (*Southwestern Limited* 「南西特急」, *Midwest Hiawatha* 「中西ハイアワサ」など。日本の「きたぐに」, 「かいじ」などは解釈次第ではこの類になろうか (§1.2. 1 をも参照)。
- (4) B. ii. (f) (*Fifth Avenue Special* 「五番街特急」, *La Salle Limited* 「ラ・サル通り特急」

など)。1.2.1で触れたように、「出島」は、江戸時代にこの地に設けられたオランダ商館の所在地に起源する歴史的地名であって、今日の長崎市の町名ではなからう。

- (5) C.i. (*Lincoln*「リンカーン」, *General*「将軍」, *Senator*「上院議員」, *Aztec Eagle*「アズティック急行」, *Miamian*「マイアミ人」, *Montrealer*「モントリオール人」など)。北米ほどではないが、ヨーロッパ（たとえば TEE など）からもこのグループの例を多く挙げられる<sup>3</sup>: *Prinz Eugen* (人名), *Roland* (人名), *Konsul*「領事」, *Donau-Kurier*「ドナウ急使」, *Berliner*「ベルリン人」, *Le Catalan*「カタロニア人」, *Stockholmaren*「ストックホルム人」, *Värmlänningen*「ヴェルムランド州人」など。
- (6) C.ii. (b) (*Owl*「ふくろう」など)
- (7) C.iii. (*Caribou*「かもしか」, *Thoroughbred*「サラブレッド」など)
- (8) D.i. (*King Coal*「石炭王」, *Oil Flyer*「石油急行」, *Gold Coast*「黄金海岸」など)
- (9) E.i. (night<夜>, midnight<真夜中>, day<昼>, morning<朝>など)
- (10) F.iii. 日本の路線命名法 (§4.1.3参照) は、アメリカの(a)や(b)に類似している。(c)は公用日本語では不可能であろう。
- (11) G. (*Man o' War*「軍艦」など)
- (12) H.i. (*Executive*「行政部」, *Legislature*「立法部」など)
- (13) 各種のニックネーム (*Dixie Limited*「ディクシー特急」(南部), *Gopher*「はたりす」(ミネソタ州) など)。これはアメリカ人のニックネームに対する好みを明示している。
2. 2. 逆に北米になくて日本に見出される列車名称がある (§1.1を参照)。
- (1) A.ii. (a)
- (2) A.iii.
- (3) C.i.
- (4) C.ii. (a) (ヨーロッパには *Merkur*「水星」などがある。)
- (5) C.iv.
- (6) D.iii.
- (7) D.v.
3. 日本の列車名称の特徴
3. 1. 種類分布上の特徴
- (1) 地理学的名辞(A)が、名称総数の77%強(214例)を占めること
- (2) さらに、その半分以上は山岳名(48例)、水名(31例)、旧国名(31例 [113—115—118と206—209はそれぞれ同一国を指し、138と250は数ヶ国の併称である])の3項目からなること
- (3) 温泉好みの国民性か、温泉地との連想がきわめて一般的であること (A.i. (g), D.i.)
- (4) 草木類名称 (B.ii.) はほとんど専ら花木や草の名であること
- (5) 天文学的、とくに天体の名称 (C.ii.) が比較的好まれること
- (6) 気象学的名辞 (C.iii.) では<かぜ>が支配的であること
- (7) 詩的な表現法が少なくないこと (C., D.i.—ii.)。

### 3. 2. 命名法上の特徴

3. 2. 1. 当然なことであるが、国鉄旅客列車名称の多くは既存の固有名財より得られている(213例：A. i. —ii., C. ii. (a), D. v. =203)。GUDDE に従った北米のそれとの相違は、大略前段でみた通りである。彼の報告がすべての列車名称を取上げていないため、それとの比較にたつ判断は不正確なものとなり、したがってこれは避けねばならない。しかしながら、名辞の多様性の多少からみて、日本の名称では、固有名財が全体の76%強もあって、とりわけ地名の偏重的採用——あるいは、その背後にしのばれる観光宣伝的傾向——が顕著である。この宣伝要素、ないしは商業的意図は、他の種類の名称にも明らかに認められ、ある意味では、現代の命名における最初にして最大の普遍的動因である。ただ、我々の列車名称の場合、それはストレートな形を呈しているだけなのである。これを考慮するとき、日本国中に数多い各種の公園をはじめとする名所の名が意外な程わずかししか活用されていないことに気づくであろう。

地名以外の名辞の中には、本来或る特定の土地と必然的には結びつかない場合が多く(53例：A. iii., B. i. (a) —(c) —(d), B. ii., C. i. —iv. [ii. (a)を除く], D. i. —iv.), それは非地名名称中80%強にもなっている。その不特定性にも拘らず、これらの中には、多くの人々に一定の連想を抱かせる程に限定的に用いられる名称が認められる(78火の山→阿蘇山, 186リアス→三陸海岸, 195砂丘→鳥取砂丘, 182フェニックス→日南海岸, 218そてつ→南日本, 225すずらん→北海道, 106かむい→アイヌ→北海道など)。

3. 2. 2. 名称それ自体以外の特徴として、列車名称はまず、列車の始発地/終着地または通過地を示している。たとえば、189るもいは旭川——留萌間を、201せたなは函館——瀬棚間を、そして256うわじまは宇和島——高松/松山間を走っている。また常磐線を走る81ひたち(上野——平/原/町/仙台間)は常陸(茨城県)を、217そうま(仙台——水戸/上野間)は福島県相馬地方を通っている。この特徴は、他の地名名辞の多くにもあてはまる。その他の多くの列車名称は、列車が走行する地域にある特定の地方や名所のPRに貢献している。155なはや262屋久島などは更に、終着駅よりまだ遠くにある故郷を利用者に偲ばせるかも知れない。

上述以外の一群の列車名称は、列車の発着時刻や運行時刻を示唆している。たとえば、東京/品川——大阪間を走る50ぎんが(1, 2, 51, 52号)はいずれも始発時刻は21時以降であり、7あけぼの(2号, 青森発上り)は終着駅上野に6時52分に着く。48月光は月の光に照らされながら走る特急を想わせる。

新幹線の独占的列車名称である74ひかりと123こだま(さらに後出§4.1.5をも参照)をはじめ、65はと、67はやぶさ、246つばさ(→鳥→飛ぶ→速い)などには、列車の速さを象徴している。

93いなほや145みずほは、日本では特定の地域を指定できはしないが、これらの名称をもつ列車が通る地方の豊かな米作りを暗に指していると考えられる。

また、直接にはアイヌ語 Kamui<神>を借りた106かむい、日南海岸で新婚夫婦などが見る植物182フェニックスときけば、地元以外の者はエキゾチックな雰囲気を感じたり、ロマンチックなムードを再び分かち合うかも知れない。

珍しいのは、＜太陽と緑の国＞(九州) という交通公社の宣伝標語から採られた139みどり、宮崎県の代表的な民謡「ひえつき節」の中で＜椎葉たつときや目に涙ヨー＞と唱われている村の名203しいばや、スサノオノミコトの詠んだ＜八雲たつ出雲八重垣つまごみに八重垣つくるその八重垣を＞に因んだ261やくもである。

#### 4. 言語学的観察

正統的な名辞研究においては、とくにそれが地名や人名を扱う場合、語源研究が中心的問題となる。しかし、列車名称に関しては一部を除いて、語源研究は除外されてよい。なぜなら、列車名称最大の供給元たる地名の語源は、地名研究の範囲に属するからである。本稿ではしたがって、この問題は扱われない。

##### 4. 1. 品詞・語形成・(音声)・意味論的観察

われわれの資料にみる限り、列車名称はすべて名詞である。それらは語と句、固有名詞と非固有名詞、単純名詞と合成名詞などに分けられよう。単純語 (simplicia) と合成語 (composita) との限界は時には定めにくい場合もあり得るが、本稿では、今日の『一般的』な国語感覚で単純語とおもわれるもの (たとえば、「あけぼの」、「くろしお」、「さざなみ」、「やまびこ」、「北星」) は、敢えて語源論的に遡り分解することはしなかった。

4. 1. 1. 国鉄列車名称の多くは単純名詞である。それらは大きく(1)地名を代表とする固有名詞 (例 1 あぶくま, 3 あいづ, 4 あかぎ, 32 ちとせ, 49 玄海, 185 礼文, 116 金星) と(2)固有名詞的に用いられる非固有名詞 (65 はと, 139 みどり, 195 砂丘, 218 そてつ, 223 彗星など) の二群に分けられる。前者には、分類表の A. i.—ii. の多く, C. ii. (a) のすべて (13 天の川を除く?), そして D. の203 しいばが属す。一方、後者に属すべき名称は, A. iii. (78, 121, 210 を除く), B. i. (a) —(b) (214 を除く)—(c) (180, 263 を除く), B. ii. (145 を除く), C. i., ii. (b)—(c) (181 を除く), その他若干である。

4. 1. 2. 数の上で少ない合成名詞としては、分類表の A. i. (a) の一部, A. ii.—iii. の一部, B. i. (b)—(c) の一部, B. ii. (b) の14と93, C. ii. の若干, C. iii.—iv. の多く, D. i.—ii. の多くが考えられる。語形成法 (部分的に統辞法をも含む) から、(1)名詞句 (句名称) と(2)合成名詞 (合成名称) とに二分できる。われわれの列車名称において、句名称とは、二つの名詞が助辞＜の＞や＜が＞で結合されて単一の名称を形成するものを言う: 78 火の山, 265 やまのゆ＜山の湯＞, 274 ゆのか＜湯の香＞, 275 ゆのくに＜湯の国＞(13 天の川も?)。

次に合成名称とは、名詞または形容詞と他の名詞とが並列あるいは結合されて成る単一の名称のことである (ここでは厳密な意味での派生も含む)。これは音声的变化の有無によって(a)合成要素のいずれもが変化を示されない名称,(b)前半の合成要素が変化を示す名称,(c)後半の合成要素が変化を示す名称に分別できる。われわれの列車名称は、これによって以下のグループに分かれる: (a)の名称——(1)名詞+名詞: 19 あさかぜ＜朝一風＞, 62, 135, 190, 211, 221, 21 あさしお＜朝一潮＞, 103 かいじ＜甲斐一路＞, 169, 210, 120 北アルプス＜北一ア＞, 165 西九州＜西一九州＞, 59 はくたか＜白一鷹＞, 66 はつかり＜初一雁＞, 174 おくいず＜奥一伊豆＞, 175, 176, 177, (2)形容詞+名詞: 180 おおとり＜大一鳥＞, 258 わかしお＜若一潮＞

(b)の名称——(1)名詞＋名詞：93いなほ＜稲一穂＞：(2)形容詞＋名詞：214しらさぎ＜白一鷺＞，  
215

(c)の名称——(1)名詞＋名詞：17あさぎり＜朝一霧＞，211きたぐに＜北一国＞，263やまばと＜山一鳩＞，276ゆうづる＜夕一鶴＞：(2)形容詞＋名詞：14あおば＜青一葉＞，181おおぞら＜大一空＞。

4. 1. 3. 省略名称とも呼ぶべき名称がいくつか認められる（GUDDE の分類表 E. iii. とも比較）。それらは簡略に、また言いやすくするために生じたと考えられるが、副次的には次段でみる正書法上の制約とも関連するものであろう。このグループの名称は、国鉄駅として最高地点にある駅名野辺山(166)と羽幌線(53)を除く分類表 A. ii. (b)の国鉄路線と131くろよんである。後者は、1963年に完成した黒部川第四ダムの＜黒四＞である。29池北は北海道十勝支庁中川郡池田町と北見市を結ぶ池北を走る北見——帯広間の急行であり、236天北は宗谷支庁宗谷郡の天北線を經由する札幌——稚内間の急行である。200仙山は仙山線（仙台——山形間）を、252羽越は羽越線（昔の出羽——越後間）を走る急行である。

4. 1. 4. 10アルプスと186リアスは外国起源であり、両語はともに、当初は地理学の学術専門術語（The Alps, Rias coast [または Riasküste]）として借入されたためか、それぞれ英語あるいはスペイン語の名詞複数形態素 -s をそのまま導入した。これらは、すでに明治後期にはこの形で使われていたと推測される。<sup>4</sup> 従来の借用語では、この -s を切捨てるのが通則的ともいえる程に普通である。<sup>5</sup> さらに、182フェニックスも英語からの借用語である。

最後に、106かむい（＜神＞、これが本来は日本語かアイヌ語かはわれわれの場合関知しない問題である）と168ノサップ（＜雲におおわれた所＞納沙布岬）をはじめとする北海道の一部の地名はアイヌ語から、そして173オホーツクはロシア語から借りている。

4. 1. 5. 非固有名財に起源する名称は、列車名称として使用される瞬間に固有名化し（非固有名→固有名）、特定の列車を示すレッテルとなる。ところが、現実には一つのレッテルが複数の列車に用いられている例が少なくない。

たとえば、36大雪は1—5号、27ばんだいは1—6号、96犬吠は1—7号、さらに183雷鳥は1—10号までもある。しかし極端な例は、東海道新幹線・山陽新幹線の特急名称74ひかりと123こだまである。1974年2月現在で前者は約105列車に、後者は125列車にあてられている。新幹線が博多まで延びた今日、この数字は一層大きくなっているであろう。この場合、＜ひかり＞とは単に日本で最高速の列車の、＜こだま＞はこれに次ぐ高速の列車の代名詞にすぎなくなり、非固有名→固有名→非固有のプロセスを経て、ただ特定の区間を走る＜非常に速い列車＞を意味するようになった。その結果、駅のアナウンスは、どこ行きのひかり／こだま何号と詳しく伝えねばならない訳である。この意味で、一語で簡潔に、いわばすべてを表わす固有名詞としての機能はほとんど全く消えており、命名のもともとの意義が薄れ、かつ変化してしまったことになる。

#### 4. 2. 正書法上の観察

4. 2. 1. 列車名称表記方式としては、もっぱら(a)漢字、(b)平仮名、(c)片仮名によって記す場合と、(d)漢字と平仮名を、(e)漢字と片仮名を混じえて記す場合が見られる。日本語一般としては、

(a), (b), (d)が一般的な表記法であり、このことは列車名称表記にもあてはまり、前二方式が多数を占めている。その内訳は、

- (a) 漢字のみ：5, 8, 12, 15, 16他 107例
- (b) 平仮名のみ：1—4, 6, 7, 9他 159例
- (c) 片仮名のみ：10, 164, 168, 173, 182, 186
- (d) 漢字・平仮名の混用：(1) 13天の川, 78火の山；(2) 270よしの川
- (e) 漢字・片仮名の混用：(1) 120北アルプス；(2) 八ヶ岳。

(a)と(b)をあわせて266例になり、全体の96%を占めている。通常の日本語文ではもっとも一般的な(d)と、助字〈ヶ〉を用いた(e)―(2)の方式は意外に少ない。(c)は、外国語の表記法とするわれわれの正書法規則に一致している (§ 4.1.4 を参照)。

表記された字数に関しては、限られた表記空間と発音の容易さ等のため、5文字未満の名が270例と絶対的である。5文字は95, 120, 133, 158, 173, 227の6例、そして6字は182フェニックス唯ひとつである。2文字表記では漢字が、3—4文字表記では平仮名が圧倒的に多い。

4. 2. 2. ローマ字表記法は、国定の訓令式ではなく、いわゆるヘボン式が採用されている。<sup>6</sup> たとえば、28 *CHIYODORI*, 44 *FUJI*, 204 *SHIMA*, 245 *TSUBAME*, 25 *AZUMA*, 156 *NANPŪ*, 231 *TANBA* のイタリック体部分はそれぞれ、訓令式ローマ字の *T*, *D*, *S*, *T*, *D*, *M*, *M* と相違する。外国（西洋語）起源の名称は、10 *ALPS*, 173 *OKHOTSK*, 183 *PHOENIX*, 186 *RIAS* と原語綴り、あるいは原語に従ったローマ字翻字（ロシア語の173）にとどまっている。これは、未だ国語化していないとする国語感覚の結果である。

#### IV 資料一覧表（ABC順）

1. ABUKUMA	あぶくま	15. AOSHIMA	青島
2. AGANO	あがの	16. ARIAKE	有明
3. AIZU	あいづ	17. ASAGIRI	あさぎり
4. AKAGI	あかぎ	18. ASAHI	あさひ
5. AKAKURA	赤倉	19. ASAKAZE	あさかぜ
6. AKATSUKI	あかつき	20. ASAMA	あさま
7. AKEBONO	あけぼの	21. ASASHIO	あさしお
8. AKI	安芸	22. ASHIZURI	あしずり
9. AKIYOSHI	あきよし	23. ASO	阿蘇
10. ALPS	アルプス	24. AWA	阿波
11. AMAGI	あまぎ	25. AZUMA	あづま
12. AMAKUSA	天草	26. AZUSA	あずさ
13. AMANOGAWA	天の川	27. BANDAI	ばんだい
14. AOBA	あおば	28. CHIDORI	ちどり

29. CHIHOKU	池北	64. HANDA	はんだ
30. CHIKUGO	ちくご	65. HATO	はと
31. CHIKUMA	ちくま	66. HATSUKARI	はつかり
32. CHITOSE	ちとせ	67. HAYABUSA	はやぶさ
33. CHŌKAI	鳥海	68. HAYACHINE	はやちね
34. CHŌSHŪ	長洲	69. HAYATOMO	はやとも
35. DAISEN	だいせん	70. HEIAN	平安
36. DAISETSU	大雪	71. HIBARI	ひばり
37. DEJIMA	出島	72. HIDA	ひだ
38. DEWA	出羽	73. HIEI	比叡
39. EBINO	えびの	74. HIKARI	ひかり
40. ECHIGO	越後	75. HIKOSAN	ひこさん
41. ECHIZEN	越前	76. HIMAWARI	ひまわり
42. ERIMO	えりも	77. HIMEKAWA	ひめかわ
43. ESASHI	えさし	78. HINOYAMA	火の山
44. FUJI	富士	79. HIRADO	平戸
45. FUJIGAWA	富士川	80. HITA	日田
46. FUKAURA	深浦	81. HITACHI	ひたち
47. GASSAN	月山	82. HŌKI	伯耆
48. GEKKŌ	月光	83. HOKKAI	北海
49. GENKAI	玄海	84. HOKUETSU	北越
50. GINGA	銀河	85. HOKURIKU	北陸
51. GOTENBA	ごてんば	86. HOKUSEI	北星
52. GOYŌ	五葉	87. HOKUTO	北斗
53. HABORO	はぼろ	88. HYŪGA	日向
54. HAGI	はぎ	89. IBURI	いぶり
55. HAKKŌDA	八甲山	90. IIDE	いいで
56. HAKUBA	白馬	91. INA	伊那
57. HAKUCHŌ	白鳥	92. INABA	いなば
58. HAKUSAN	白山	93. INAHO	いなほ
59. HAKUTAKA	はくたか	94. INAKI	いなき
60. HAKUTO	白兔	95. INAWASHIRO	いなわしろ
61. HAKUTSURU	はくつる	96. INUBŌ	犬吠
62. HAMAKAZE	はまかぜ	97. IWAKI	いわき
63. HAMAYŪ	はまゆう	98. IWAMI	石見



99. IWATE	いわて	134. MASHIKE	ましけ
100. IYO	いよ	135. MATSUKAZE	まつかぜ
101. IZU	伊豆	136. MATSUMAE	松前
102. IZUMO	出雲	137. MATSUSHIMA	まつしま
103. KAIJI	かいじ	138. MICHINOKU	みちのく
104. KAIMON	かいもん	139. MIDORI	みどり
105. KAMOME	かもめ	140. MIHO	美保
106. KAMUI	かむい	141. MIMASAKA	みまさか
107. KARAKUWA	からくわ	142. MINOBU	みのぶ
108. KARIKACHI	狩勝	143. MISAKI	みさき
109. KARUIZAWA	軽井沢	144. MIYAZAKI	みやざき
110. KASUGA	かすが	145. MIZUHO	みずほ
111. KAWAGUCHI	かわぐち	146. MOGAMI	もがみ
112. KENROKU	兼六	147. MONBETSU	紋別
113. KII	紀伊	148. MORIOKA	もりおか
114. KINKŌ	錦江	149. MURONE	むろね
115. KINOKUNI	きのくに	150. MUROTO	むろと
116. KINSEI	金星	151. MUTSU	むつ
117. KIRISHIMA	きりしま	152. MYŌJŌ	明星
118. KISHŪ	紀州	153. MYŌKŌ	妙高
119. KISO	きそ	154. NAGISA	なぎさ
120. KITA-ALPS	北アルプス	155. NAHA	なは
121. KITAGUNI	きたぐに	156. NANPŪ	南風
122. KITAKAMI	きたかみ	157. NASUNO	なすの
123. KODAMA	こだま	158. NATSUDOMARI	なつどまり
124. KOMAGANE	こまがね	159. NAYORO	なよろ
125. KOMAKUSA	こまくさ	160. NICHINAN	日南
126. KUJI	久慈	161. NICHIRIN	にちりん
127. KUMAGAWA	くまがわ	162. NIHONKAI	日本海
128. KUMANO	くまの	163. NIKKŌ	日光
129. KURIKOMA	くりこま	164. NISEKO	ニセコ
130. KUROSHIO	くろしお	165. NISHI-KYŪSHŪ	西九州
131. KUROYON	くろよん	166. NOBEYAMA	のべやま
132. KUSATSU	草津	167. NORIKURA	のりくら
133. KUZURYŪ	くずりゅう		

168. NOSAPPU	ノサップ	203. SHIIBA	しいば
169. NOTOJI	能登路	204. SHIMA	志摩
170. NOZAWA	野沢	205. SHIMOKITA	しもきた
171. NUSAMAI	ぬさまい	206. SHINANO	しなの
172. OGA	おが	207. SHINJI	しんじ
173. OKHOTSK	オホーツク	208. SHINSEI	新星
174. OKU-IZU	おくいず	209. SHINSHŪ	信州
175. OKU-KUJI	奥久慈	210. SHIOJI	しおじ
176. OKU-MINO	おくみの	211. SHIOKAZE	しおかぜ
177. OKU-TADAMI	奥只見	212. SHIRAHAMA	しらはま
178. ONDO	音戸	213. SHIRANE	白根
179. ŌSUMI	大隅	214. SHIRASAGI	しらさぎ
180. ŌTORI	おおとり	215. SHIRAYUKI	しらゆき
181. ŌZORA	おおぞら	216. SHIRETOKO	しれとこ
182. PHOENIX	フェニックス	217. SŌMA	そうま
183. RAICHŌ	雷鳥	218. SOTETSU	そてつ
184. RAIDEN	らいでん	219. SOTOYAMA	そとやま
185. REBUN	礼文	220. SŌYA	宗谷
186. RIAS	リアス	221. SOYOKAZE	そよかぜ
187. RIKUCHŪ	陸中	222. SUIGŌ	水郷
188. RISHIRI	利尻	223. SUISEI	彗星
189. RUMOI	るもい	224. SUWA	すわ
190. SACHIKAZE	さちかぜ	225. SUZURAN	すずらん
191. SADO	佐渡	226. TAISHA	大社
192. SAIKAI	西海	227. TAISHAKU	たいしゃく
193. SAKURA	さくら	228. TAJIMA	但馬
194. SAKURAJIMA	桜島	229. TAKACHIHO	高千穂
195. SAKYŪ	砂丘	230. TAKAYAMA	たかやま
196. SANBE	さんべ	231. TANBA	丹波
197. SANYŌ	山陽	232. TANGO	丹後
198. SAZANAMI	さざなみ	233. TATESHINA	たてしな
199. SENSHŪ	千秋	234. TATEYAMA	立山
200. SENZAN	仙山	235. TAZAWA	たざわ
201. SETANA	せたな	236. TENPOKU	天北
202. SETO	瀬戸	237. TENRYŪ	天竜

238. TENTO	天都	258. WAKASHIO	わかしお
239. TOGAKUSHI	とがくし	259. WASHŪ	鷺羽
240. TŌKAI	東海	260. WATARASE	わたらせ
241. TOKI	とき	261. YAKUMO	やくも
242. TOKIWA	ときわ	262. YAKUSHIMA	屋久島
243. TOSA	土佐	263. YAMABATO	やまばと
244. TOWADA	十和田	264. YAMABIKO	やまびこ
245. TSUBAME	つばめ	265. YAMANOYU	やまのゆ
246. TSUBASA	つばさ	266. YATAKE	やたけ
247. TSUGAIKE	つがいけ	267. YATSUGATAKE	八ヶ岳
248. TSUGARU	津軽	268. YONESHIRO	よねしろ
249. TSUKUBANE	つくばね	269. YONEYAMA	よねやま
250. TSUKUSHI	つくし	270. YOSHINOAWA	よしの川
251. TSURUGI	つるぎ	271. YUFU	由布
252. UETSU	羽越	272. YUKEMURI	ゆけむり
253. UNAZUKI	うなづき	273. YUMIHARI	弓張
254. UNZEN	雲仙	274. YUNOKA	ゆのか
255. UONO	うおの	275. YUNOKUNI	ゆのくに
256. UWAJIMA	うわじま	276. YŪZURU	ゆうづる
257. WAKASA	わかさ	277. ZAŌ	ざおう

## 注

### I.

1. たとえば、藤岡謙二郎教授(『日本の地名』講談社、昭和49年、195ページ)は、「ドイツの Namenkunde」というように外国語術語を用いている。
2. Johannes A. Huismann: Unerforschte Gebiete der Namenkunde, in VI. Internationaler Kongress für Namenforschung. München 24.—28. August 1958. Kongressberichte, Bd. 2. Hrsg. von Karl Ouchner. München 1961, S. 361—8. (=Studia onomastica Monacensia 3.)

### II.

1. Erwin G. Gudde: Names and trains, in NAMES 1, pp. 41—47, 132. 更には p. 130 f. をも参照。
2. R. S. Henry, in NAMES 1, p. 131 をも参考。
3. 同上。
4. 同類の名は、たとえばW.ディズニー漫画の主人公 Mickey Mouse や Donald Duck にも認められる。

### III.

1. 次注をも参照されたい。
2. 国鉄本社旅客局営業課サービス係は、「おおとり」を中国の史説による＜大鵬＞と考えている。もしこれが正しいならば、60白兎をも含めて、神話伝説由来名称というきわめて特徴的な小グループが新たに設けられ得る。なお、「白兎」が＜しろうさぎ＞と訓まれるならば、この新グループの設定は、一般的な連想によっても強く支持されるだろう。

3. 資料は、スウェーデン国鉄発行の時刻表2種：*Tåg till utlandet* (gäller 29 sept. 1974—31 maj 1975); *Snabbtåg 26 aug—31 maj 1974—75*.
4. 荒川惣兵衛編『外来語辞典』(角川書店, 昭和42年) 所収項目<アルプス>と<リアス>, およびその用例をみよ。なお, 他の資料でご確認いただいた本学君塚進教授(人文地理学)にお礼申し上げます。
5. 矢崎源九郎『日本の外来語』(岩波書店, 1964年), 189ページをも参照。
6. 国鉄本社旅客局サービス係のご教示による。